

生野中学校区義務教育学校開校に向けた説明会でのご意見・ご質問

令和2年2月2日（日） 舍利寺小学校開催分

1	ご意見・ご質問	<p>疎開道路、クロネコヤマト集荷場横を東西に走る道路は今後拡幅される予定はあるか。交通量が増えればリスクも大きくなるし、スピードを出している自転車も多い場所なので、もっと深刻に考えてほしい部分。今後の道路の拡幅計画等はどうなっているか。</p> <p>人通りが増えると通り道の住宅へいたずらや、子どもの声をうるさいと感じる人もでてくるかもしれない。児童生徒が近隣住民の迷惑にならないように、学校側の指導もはじめとした対策を行っていただきたい。</p>
	回答	<p>疎開道路の拡幅は計画されており、南側から順次着手されています。計画が実行される際には、内容を把握したうえで、可能な安全対策をとってもらえるよう要望していきます。クロネコヤマト集荷場横の東西道路についても拡幅計画はあり、東側より順次着手されていますが、具体的な時期は未定です。拡幅後に限らず、今の状況に対しても、道路管理者の建設局へ要望し、安全対策を進めていきます。</p>
2	ご意見・ご質問	<p>資料P. 8の児童生徒数の試算では、例えば令和4年度の1年生は96名となっているが、クラス編成としてはどのような形になるのか。</p>
	回答	<p>1、2年生は1クラス35名、3年生以上は1クラス40名の編成なので、96名の1年生であれば3クラスとなります。</p>
3	ご意見・ご質問	<p>この再編は決定したものなのか。再編される内容が変更することはあるか。他の学校の組み合わせ方はあり得なかったのか。1から見直すということはできないのか。児童生徒数が増えれば、校地に詰め込みの形になってしまう。</p> <p>キャリア教育、外部講師による授業、早期のクラブ活動、クラス替えなどは、別に4校で再編しなくても実現できることではないのか。</p>
	回答	<p>教育委員会・大阪市としては、今回の説明の内容にて方針を決定しています。ただし、今年9月を予定している大阪市会において条例改正が行われることを以って、最終的な決定となります。</p> <p>再編する学校の組み合わせについては、他のパターンも検討は行ってきましたが、生野区西部地域全体として、単学級の解消のためにこのような形にせざるを得ないとなりました。</p>
4	ご意見・ご質問	<p>条例改正までは再編は決まっていないということか。再編される内容が変更されることはあるか。</p>
	回答	<p>大阪市の方針としては決定しています。</p>
5	ご意見・ご質問	<p>地域公共交通の具体的な活用の想定はどのようなものか。</p>

	回答	<p>スクールバスの導入については、国では片道4km以上、大阪市では片道2km以上の通学を条件としています。地域公共交通の取組みについては、地域、事業者、行政による勉強会を令和元年8月に立ち上げ、そこからステップアップした検討会を令和元年11月に実施しています。今年度3度目の検討会を2月14日に開催し、今後、十分な検討を行い一定の方向性を示し、具体的な方策を検討していきたいと考えます。</p> <p>アプリ等を活用したオンデマンド交通の取組みも全国的には先進事例もあり検討できます。朝は通学、昼間は高齢者の外出手段としての活用を念頭に、路線の検討も進め、令和3年度に実証実験を行い、令和4年度の運用に間に合わせたいと考えています。</p> <p>地域公共交通以外の次善の手段として、既存の大阪シティバスの系統を児童の通学に活用することも並行して検討しています。</p>
6	ご意見・ご質問	片道4km以上の通学は大阪の実情に合っていない非現実的な数字である。その基準を持ち出すのはおかしいのではないか。
7	ご意見・ご質問	バスが走ったとして、舍利寺地域の子どもは全員乗れるのか。費用はかからないのか。
	回答	現在、大阪市で通学のためのバスを走らせている事例はありません。しかしながら、幼稚園保育園や習い事等のバスにオンライン機能を活用している事例はあります。大阪市として初めての取組になるので、課題はありますが、全市的な成功例となるよう取り組んでいきたいと考えます。
8	ご意見・ご質問	学校選択制の導入はいつ決定するのか。
	回答	令和4年度新入学生から利用できるよう導入するとすれば、令和3年3月までには決定します。
9	ご意見・ご質問	舍利寺歩道橋の老朽化が進んでいる。また、高さも児童の肩ぐらいしかなく、風が強い日などは傘が飛ばされそうになっているようだ。
	回答	いただいたご意見を受け止め、関係先と調整を行います。歩道橋の件以外にも、今後、通学路の検討を進めるにあたり、保護者、地域住民の皆さまと一緒に現地確認を行いたいと考えます。また、いつでも情報をいただきたいと思えます。
10	ご意見・ご質問	今は集団登校をしていないが、通学距離も長くなるとすれば、家から送り出して終わりとはできない。
	回答	集団登校については、現在、生野中学校区では1小学校のみ実施しています。今後、集団登校を行うのか否かも含めて、保護者、学校とも調整を行っていきたく考えます。

11	ご意見・ご質問	カラーポスト以外にも、信号機の設置についても議論はできるのか。
	回答	信号機の設置については警察と調整を行っていくこととなります。
12	ご意見・ご質問	平野川にかかる橋も老朽化が進んでいる。
	回答	平野川の橋についても、ブロック設置等により、歩車分離を進めていきます。
13	ご意見・ご質問	正式な決定は令和2年の秋なのに、工事は先に行うということか。工事を行うことにより、現在、中学校に在籍する生徒の部活動に影響は出ないのか。正式に決まっていけないもののために、学校生活に影響が出ることはいかなものか。舍利寺小学校区は再編に反対しているのに、なぜ再編を進めるのか。
	回答	大阪市のこれまでの学校再編の事例でも、基本的には開校の前年度に条例改正を行っていることから、事前に施設整備は進めています。あくまで、校名が決まるタイミングで条例改正を行っていくということで、必要な整備は市としての方針決定を以って進めていくこととなります。また、工事を進めるにあたっては、安全面や学校活動に配慮した形で進めます。
14	ご意見・ご質問	元々、舍利寺小学校は生野小学校からの分校である。通学の安全も考えて、中学校区の中心の場所にあたる生野小学校への再編はできないのか。
	回答	生野中学校区は東西に長く、どの校地が良いかについては検討を重ねてきました。校舎の増築の有無や、生野小学校の校地が広くないこと、再編により1中学校1小学校となることから、小中一貫した教育を行う形が良いと判断しました。生野中学校、西生野小学校の校地を活用することで、通学距離が長くなるというデメリットがあることは認識しています。
15	ご意見・ご質問	小中一貫した教育を行う必要があるのか。小中一貫校の設置を進めたい大人の事情に思えてしまう。
	回答	学校としても9年間を通して子どもをみられるメリットは大きいと考えます。
16	ご意見・ご質問	グラウンドは低学年、中学生が混合することになるのか。
	回答	他の小中一貫校の事例では、小学校・中学校のグラウンドを分けている場合もあれば、一体としている場合もあり、どちらの形にすることも可能かと考えています。ただし、現在の生野中学校と西生野小学校の間には段差があるので、完全に一体化するという形にはなりません。

17	ご意見・ご質問	新校舎ができることで、実際にグラウンドはどれくらい狭くなるのか。運動会の際には、保護者が入りきれぬのか。
	回答	<p>運動会は小中合同での開催を前提に検討をしていく予定です。</p> <p>※補足 校舎を増築する西生野小学校の運動場の面積は、約 3,550.411 m²→2,225.6 m²になりますが、これまで遊具等を設置していた場所に校舎を増築することから、体育活動等を実施する場合の面積への影響は少なく、運動場のトラックの大きさも変更はありません。</p> <p>運動場の使用に関して、教育上及び安全上支障がないよう運営してまいります。</p>
18	ご意見・ご質問	小中一貫校と義務教育学校の違いは何か。なぜ小中一貫校化を進めるのか。
	回答	義務教育学校と小中一貫校の違いは大きく3点あります。①小中一貫校が1つの小学校と1つの中学校からなることに対し、義務教育学校は1つの学校であること、②小中一貫校では小学校の教員と中学校の教員が在籍することに対し、義務教育学校では小中学校両方の教員免許をもつ教員によって組織されること、③子どもたちの様子を見ながら、小・中学校のカリキュラムを柔軟に運用できることが挙げられます。
19	ご意見・ご質問	生野区で小中一貫した教育の特色を打ち出すことに何の意味があるのか。大阪市として特色を打ち出すために、校区をズタズタにしてまでやるほど、子どもへのメリットがあるのか。
	回答	生野中学校では、4小学校から児童が集まることから、集団づくりの難しさが経年的な課題でした。9年間で系統だて、早くから集団育成に取り組むという意義は大きいと考えます。
20	ご意見・ご質問	9年間で1つの学校ということは、転出や受験により違う中学校に行くこととなれば、中退扱いになるのか。
	回答	義務教育は大きく分けて、小学校6年間に相当する前期課程、中学校に相当する後期課程があり、前期課程を修了していれば通常の小学校を卒業することと同じであり、中退扱いとはならず、子どもに合った形で対応は可能です。
21	ご意見・ご質問	小学生、中学生が混合することで、中学生が我慢させられるようなことは起こらないのか。現在、生野中学校に在籍する生徒にとっては、使えるグラウンドが狭くなるのではないのか。小学生の人数の方が多くなるので、中学生の保護者への配慮がされにくくなるようなことはないのか。

22	ご意見・ ご質問	<p>小規模校のきめ細やかさはどうなるのか。特に特別支援学級へのケアは十分に行われるのか。特別支援学級に入っていないくとも、支援を必要とする子には現状、TT（チーム・ティーチング）※等のフォローがされているが、そのような取組みはどうなっていくのか。</p> <p>※TT（チーム・ティーチング） 複数の教員による共同授業</p>
	回答	<p>児童生徒一人ひとりの特性を理解した指導を行っていくことは変わりません。具体的な取組として、他校よりも手厚い教員加配を行っていきます。現状の小学校と中学校が別の学校の形であれば、中学校の教員が小学校段階で児童を見られる機会は限られます。既設の施設一体型小中一貫校においても、教員間で情報共有を行いながら、日常的に中学校の教員が児童を見て、9年間で子どもを把握できるという成果が報告されています。</p>